

平成 28 年度 自己評価表

鳥取県立日野高等学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>1 小さくてもキラリと光り輝く学校 2 一人ひとりを大切にする学校 3 地域に信頼される学校</p>	<p>今年度の重点目標</p>	<p>1 【学力の向上】基礎学力を定着させ、確かな学力を育成する 2 【豊かな心の育成】ルール・マナーを身につけさせ、心豊かな生徒を育てる 3 【希望する進路の実現】キャリア教育を充実させ、希望進路の実現を図る 4 【開かれた学校づくり】積極的に情報を発信し、家庭・地域との連携を図る</p>
----------------------------------	---	------------------------	--

年度当初					評価結果(2)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 【学力の向上】 基礎学力を定着させ、確かな学力を育成する	わかる授業の実施	生徒の理解力や実態に応じた授業が行われている。	生徒が授業内容を理解し、授業規律を守り、積極的に授業を理解しようとする。	<ul style="list-style-type: none"> 授業ごとの目標を定め、教員はその目標を生徒に最初に明確に示してから授業に入る。 様々なニーズに合う特色ある選択科目を設置する。 生徒による授業評価を実施し、授業の自己点検を行う。 教員対象の各種研修を実施し、教員の指導力を高め、学校として統一した基準で指導できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT を活用し、生徒の興味関心を高める授業が増えてきた。 授業のユニバーサルデザイン化や「学びのルール」について、教職員で共通認識を図り、共通のフレームで指導にあたった。 全科目で授業アンケートを実施し、生徒の63.2% (前年度61.4%) が授業がわかりやすいと回答している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 継続してわかりやすい授業づくりを行い、学ぶ喜びを感じることでできる指導法を工夫する。 「学びのルール」を定着させ、学力の向上に繋がるよう、粘り強く指導にあたる。 タブレット端末などを活用し、ICTを取り入れたわかりやすい授業実践を更に増やす。
	個に応じた学習指導	少人数指導・個別指導を通して、基礎学力の定着に努めている。	生徒それぞれの実態を把握し、進路希望を実現できる学力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望や能力に応じたきめ細やかな指導を行う。 授業形態や教材の工夫・改善を図る。 個別補習・個別面談などを通し、生徒の状況把握をし、進路実現を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路調整会を持ち、生徒の進路希望に応じた科目選択ができるよう個人面接で指導をした。 長期休業ごとに講習の日程を調整し、進路希望や個々の生徒の実態に応じた学習指導を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態を把握し、一人ひとりに応じた指導方法を工夫する。 進路希望に合致した科目選択ができるよう、進路科目調整会の複数開催や、ガイダンス、面接指導の充実を図る。 長期休業中の講習や放課後補習などを充実させ、進路実現に向けた学力の向上を図る。
	基礎学力の養成	就職、進学に必要な基礎学力が十分身につけていない生徒もいる。	3年間を見通して進路実現に必要な学力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力をつけるために国英数での習熟度授業を実施。 基礎学力向上できる授業を行うため、指導方法を工夫する。 基礎学力委員会で学力向上策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力の現状把握や効果的な指導方法について、教員研修を実施した。 進学希望者を対象に2月より週3回の放課後講習を計画し、10人が受講した。 全生徒が一般常識テストに取り組み、60.7% (前年度 57.2%) の生徒が知識が身についたとアンケートに回答している。 一般常識テストの合格率は42.0%で昨年度にくらべ3.1%減少した。 一般常識テストの不合格者に対して再テスト等の追指導を行い、知識の定着を図った。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学び直しの授業科目を検討し、基礎学力の向上に効果的な指導方法を実践する。 一般常識テストやベーシック等の内容を見直して、基礎学力の定着を図る。
2 【豊かな心の育成】 ルール・マナーを身につけさせ、心豊かな生徒を育てる	TEASの推進	各種啓発活動により、環境に対する意識が高まりつつある。	校内の環境や美化について考えることをとおして、環境意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 環境委員会を活性化し、校内美化意識向上につなげる。 根雨地区でのボランティア清掃を行う。 環境教育校外研修・環境教育講演会を通して、環境保全の必要性や環境配慮社会について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各クラス的环境委員がゴミ重量を計量し、ゴミの分別や減量化を働きかけるとともに、減量化の成果を掲示し、環境意識の向上を図った。(12月段階で、昨年同月より13.6%減少) 高校総体期間中に根雨町内や根雨駅の清掃ボランティア活動を行った。 環境教育校外研修と環境教育講演会を実施し、生徒を取り巻く環境への興味、関心を高めた。 学校評価アンケートでは、生徒の71.2%が「清掃活動や環境活動に十分取り組んでいる。」と回答している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ゴミ減量化の成果を生徒にわかりやすいよう提示し、環境意識の向上を図り、行動に結びつける。 環境保護団体、消費生活センター等と連携し環境教育の充実を図る。 中学校と合同で町内清掃を行うなど、環境美化活動を促進する。
	安心・安全な学校生活	指導部と生徒支援部・各学年が連携し、全体として落ち着いた学校状況にある。	ルールやマナーを遵守した行動をとることができ、規律ある学校生活を送ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員が指導方針を統一して取り組む。 集団生活を営む上で必要なルール・マナーを身につけさせる。 服装、言葉遣い、授業中の態度などの指導を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 服装、言葉遣い、授業中の態度は、概ね向上しているが、一部に粗暴な言動や授業中の私語等、学習に集中できない生徒がある。 基本的な生活習慣が身につけていない生徒や、通学(乗車)マナー等の社会性に課題のある生徒も少なくない。学校生活を通して、粘り強く継続的に指導している。 本年度12月1日現在の遅刻延べ回数は629回で昨年度より174回減少しているが、基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせる必要がある。 遅刻対策として、2月から遅刻届を導入した取組を実施。 構成的グループエンカウンターやグループワークを取り入れた学級づくりや仲間づくりの取組を行った。 年度途中に、再度、指導改善カードの活用方法の確認を行い、全教職員が指導方針を統一して取組むことを確認した。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 社会人として必要なルールやマナーについて、繰り返し粘り強く指導する。 学習に集中できない生徒への対応として、教材や指導方法を工夫するなどの対策を立てる。 生徒指導規定や学びのルールなどを確認し、指導方針の統一を図る。 遅刻届の検証を行い、成果について可視化していく。 1年次生に対する、人間力アップ合宿を導入する。
	特別支援教育の充実	多様な悩みを抱えた生徒、特に人間関係に悩む生徒もいる。	円滑な人間関係を築き、他者への配慮や気遣いを実践することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の課題を把握し、ケース会議等を開催し生徒の変化を見逃さない支援を行う。 生活指導部・各学年だけでなく、教育相談員、若者サポートステーション、スクールソーシャルワーカー等とも連携して生徒支援を行う。 ユニバーサルデザインを意識した授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の課題を把握し、ケース会議等を開催し、個に応じた支援を行った。 スクール・ソーシャルワーカーの定期訪問を導入した。 教育相談員、若者・スクールソーシャルワーカー等と連携して生徒支援の充実を図ることができた。 ユニバーサルデザインを意識した授業を心がけた。 学校評価アンケートでは、63.0%の生徒が「悩みや心配事の相談に親身に応じてくれる。」と回答している。(前年度46.8%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の関係づくりや障害と支援等についての教職員研修を充実させ、指導方法を共有し、生徒指導に生かす。 外部機関の専門家と情報交換する機会を増やす。

評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	29年度に向けての改善方策
3【希望する進路の実現】 キャリア教育を充実させ、希望進路の実現を図る	すべての生徒の進路保障	自分の進路を実現するために、主体的な進路選択ができない生徒もいる。	自らの進路を熟考することができ、進路実現に向けた行動をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・諸ガイダンス、講演などを通じ、保護者・生徒へ適切な進路情報の提供を行う。 ・全職員による指導体制を確立し、徹底した面接・小論文指導等を行う。 ・3年間を見通した進路指導計画を立て、進路指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面接指導や進学希望者への個別指導など、個々の進路希望に応じた指導を行い、合格実績に繋がった。 ・外部の方にも面接指導をしてもらい、緊張感を持って練習できた。 ・学校で十分な面接指導を受けずに、採用試験を受験したケースがあった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・LHRやSHR等の時間を利用して、生徒に進路情報の提供を積極的に行う。 ・進路保護者会で進学・就職の最新情報の提供をするともに、進路相談の充実を図る。 ・進路調整会を定期的に開催し、適切な進路指導にあたる。 ・就職対策の面接指導は、全校教職員に割り振り、指導にあたる。 ・進路希望に応じて外部模試や資格試験の受験を積極的に推奨する。 <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中、2年次の進学系列の生徒には勉強合宿、3年就職希望者には就職直前研修を実施する。
3【希望する進路の実現】 キャリア教育を充実させ、希望進路の実現を図る	キャリア教育の推進	さまざまな行事を通して、早期にキャリア教育に取り組んでいる。	早い時期から、生徒の進路意識を高揚させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業・産業社会と人間・課題研究などさまざまな場面で生徒の自己表現や発表の場を増やしていく。 ・新社会人の講話を行い、生徒の進路意識を高める。 ・学校・事業所見学、職場体験実習、農業体験学習などを実施し、進路に対する意識づけを強める。 ・キャリアアドバイザー通信などを通して、適切な進路情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な講演会や地域交流活動、フィールドワークなどをとおして生徒の進路意識を高めることができた。 ・キャリアアドバイザー通信や進路LHR、進路保護者会等を通して、進路情報を適宜生徒や保護者に提供した。 ・「産業社会と人間」や「課題研究」の授業で学校魅力向上コーディネーターと連携してさまざまな取り組みを行い、自分の将来の進路決定に参考となる材料を提供できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験実習先との綿密な打合せを行い、より充実した実習となるように計画する。 ・職場体験の事前・事後指導の充実を図り、健全な勤労観・職業観を身につけさせる。 ・キャリア教育の全体計画を見直し、身に付けさせたい力を明示した、一貫したキャリア教育の体系を確立する。
	資格取得の推進	情報ビジネス、アグリライフ系列などそれぞれの系列で資格取得に努めている。	積極的な検定の受検を促し、各種資格取得者を各系列で増加させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉や介護教育を推進し、地域に貢献できる人材を養成する。 ・各種資格取得試験について、生徒への丁寧なガイダンスを行う。 ・各種資格取得試験に向けての講習を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路LHRや講演会などをとおして、資格取得の重要性を生徒に説明した。 ・アグリライフ系列では、ガス溶接技能講習修了が6人(前年度2人)、小型車両系建設機械特別講習修了が7人(同0人)など技能を身につけさせることができた。 ・情報ビジネス系列では、全商ビジネス文書検定1級2人(前年度0人)、2級6名(同13人)、3級18人(同19人)、全商情報処理検定2級9人(前年度0人)、3級8人(同20人)が合格した。 ・あいサポーター研修や認知症サポーター研修などを新たに取り入れ福祉への理解を図った。 ・介護職員初任者研修を着実に実施し、地域の福祉人材の育成を図ったが、介護関係の進学・就職を選択する生徒が減少した(H27 6/11→H28 2/12)。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の学習や「産業社会と人間」や職場体験などを通し、勤労観・職業観の育成を図りながら、職業と資格との関連性や、資格取得のメリットや重要性について理解させる。
4【開かれた学校づくり】 積極的に情報を発信し、家庭・地域との連携を図る	地域交流活動の推進	日野高ショップ、各種ボランティア活動などを通して地域の方々と交流を深めている。	異世代とのコミュニケーションがとれ、地域との交流を通して、自分の考えや意見を適切に表現する能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活用し、授業内容の充実を図る。 ・地域交流を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。 ・福祉そば打ち・福祉餅つきなどのボランティア活動に積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」や「総合学習」では、地域の人材・資源を活用した授業展開を工夫し、地域交流の促進と授業内容の充実が図れた。 ・福祉そば打ち、福祉餅つきでは生徒会の生徒に加え、新たにアグリライフ系列の生徒も配布活動を行い、地域から好評であった。 ・熊本地震・鳥取中部地震の義援金の募金活動を日野高ショップで行い、社会貢献活動にも力を入れた。 ・「課題研究」では、地域食材を活用した商品開発を行い、日野高ショップや米子しんまち天満屋において試食アンケートや販売活動を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」や「総合学習」の外部指導者との連携を綿密に行い、生徒が主体的に活動できるように事業計画を見直していく。 ・地域事業所と連絡調整を密に行い生徒が主体的に活動出来るように企画する。 ・奉仕の精神を涵養し、日野郡内のボランティア活動を推進する。
	部活動、生徒会活動による活性化	部活動加入率が低く、団体戦に出場できない部活動もある。陸上競技部や郷土芸能部など地域に出かけ交流活動や公演等を行う部活動もある。	部活動、生徒会活動などを通して、協調性や責任感を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動を通して、チームワークや集中力、社会性を身につけさせる。 ・部活動やボランティア活動への参加を働きかけ、学校の活性化につなげる。 ・責任感と主体性の育成及び達成感・連帯感を体験させるため、生徒会活動、委員会活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が部活動に加入するよう一斉部集会や個人への働きかけを行った。昨年度の部活動加入率は、71%、今年度は69%でほぼ横ばいであった。 ・3年生の部活動未加入者を対象にボランティアサークルを設け、定期的に町内清掃活動を実施した。 ・射撃部は国体への出場を果たした。 ・郷土芸能部は各地のイベントに積極的に参加し、韓国でも公演を行った。 ・学校祭などの生徒会行事を通して生徒会活動の活性化を図った。 ・ボランティア活動が一部の生徒に限定され、活動があまり広がらなかった。 ・部活動に力を入れている生徒は概ね、協調性や責任感を身につけつつある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への加入を促す方策として、未加入生徒の集会を実施したり、個別面談などで積極的に入部を働きかける。 ・生徒にボランティアの募集状況をSHRや掲示を通して広報する。 ・各部活動単位でのボランティア活動を推奨する。
	地域や保護者への情報発信	学校広報誌日野川を発行し、ホームページを頻繁に更新するなどして、学校の様子を地域や保護者に発信している。	学校の様々な情報を積極的に発信し、保護者・地域・中学校からの日野高理解につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「開かれた学校づくり」に取り組み、保護者や地域と連携して、諸活動に取り組む。 ・新聞やテレビなどのマスメディアを活用した広報をより積極的に行う。 ・学校報告会、PTA総会の公開授業などを土曜日開催とし、保護者が出席しやすい状況を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新手続きが複雑で迅速に対応できない場面があった。 ・新聞、テレビ等の報道機関に対して積極的に日野高校の情報を提供し、多数のメディアで放映や掲載がなされた。 ・学校報告会とPTA総会を本年度も土曜開催としたが、PTA総会は昨年度より出席者が減少した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページをブログ形式へシステム変更する。 ・各町報や社会福祉協会便り等の紙媒体への広報活動も積極的に進めてゆく。

評価基準 A：十分達成 [100%] B：概ね達成 [80%程度] C：変化の兆し [60%程度] D：まだ不十分 [40%程度] E：目標・方策の見直し [30%以下]